

武豊町水道事業ビジョン【概要版】

令和3年2月

策定の背景と趣旨・計画期間

現在、全国の水道事業は、人口・料金収入の減少、更新需要の増大、職員不足、災害対策等の環境変化への対応が求められています。こうした中、水道法改正により基盤強化を図ること、また、総務省より令和2年度までに、中長期的な経営の基本計画となる「経営戦略」を策定することが要請されています。このため、将来にわたり安全で安心な水道の継続と、基盤強化を図るため、経営戦略の要素を加えた「武豊町水道事業ビジョン」を策定しました。(計画期間:令和3~12年度までの10年間)

1.水道事業の概要

昭和35年8月の事業創設から60年が経過し、現在の水道普及率は99.94%(令和元年度末)です。節水型機器の普及や大口使用者の工業用水への切替えによって、平成25年度決算では当年度純損失を、その後も営業損失を計上しています。このような状況において、経営健全化を図るため、これまでに、施設統廃合・民間活用・受水費用削減等に取り組んでいます。

2.現況評価と課題の抽出

- ・現在の水道料金は比較的安価に設定されていますが、財政面は良好です
- ・平成7年度を最後に企業債の借入がないため、企業債残高は年々減少しています
- ・耐用年数を超過している管路や電気機械設備が多く、更新や耐震化が遅れています
- ・職員数が少なく、経験年数が短いことにより、知識・技術の蓄積と継承が不足しています

3.将来の事業環境

- ・人口減少や節水型機器の普及等により、給水収益の更なる減少が見込まれます
- ・施設の老朽化が更に進行し、継続した更新費用が必要となります

4.基本理念と基本目標

- 基本理念：安全安心を未来につなげ みんなで築くやさしい水道
 基本目標：【安全】安全安心な水を安定して供給する
 【強靱】災害に強い施設・体制を構築する
 【持続】基盤強化により事業を未来へつなげる

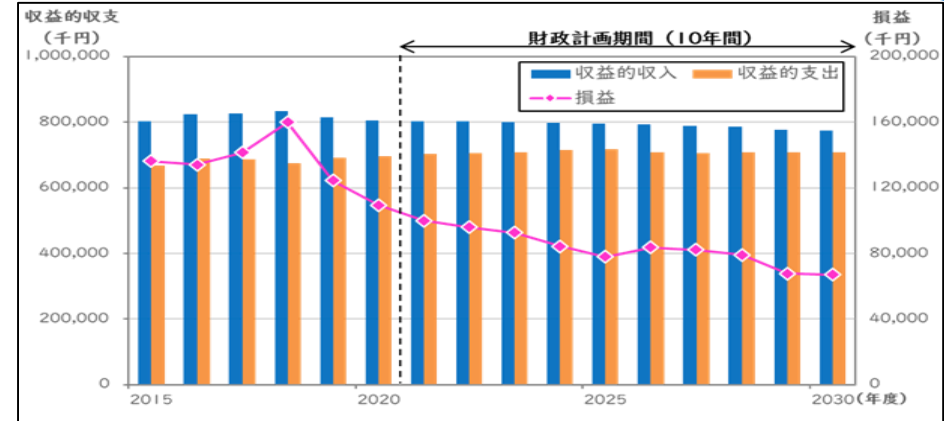
5.実現方策

基本目標	施策方針	施策内容
【安全】 老朽化施設更新事業	老朽化施設の適正な更新	計画的な老朽管の更新
		アセットマネジメントに基づく電気機械設備の更新
【強靱】 災害対応力強靱化事業	管路の強靱化	重要給水施設管路の優先的耐震化
		管路の耐震化
	災害対応力の向上	危機管理体制の強化 災害に対応した施設の整備
【持続】 経営基盤構築事業	技術の継承	技術力の確保と育成
	健全な財政の維持	財政収支見通しの把握
		水道料金の適正化に向けた取組
		アセットマネジメントによる更新需要の平準化
	事業の効率化	近隣事業者との広域連携
官民連携の推進 ダウンサイジングの検討実施		

6.投資財政計画

①収益的収支について

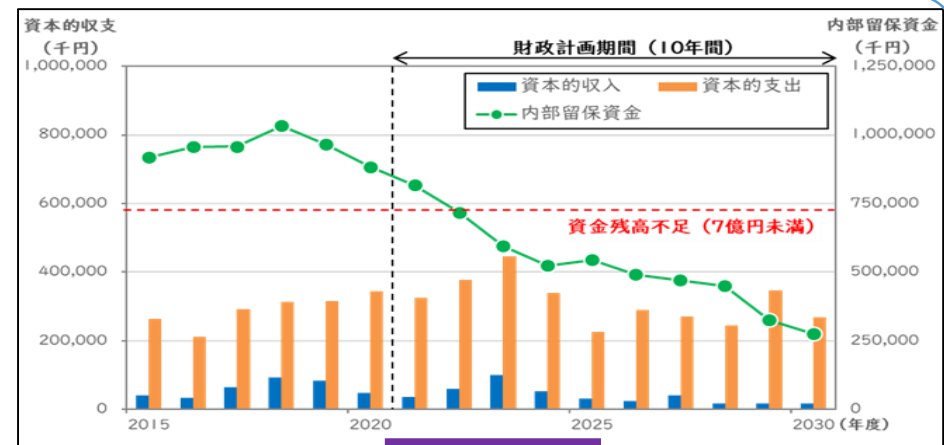
損益は減少傾向で、営業損失の計上が続きます。しかしながら、財政面は比較的良好であるため、現在の料金水準を維持し、計画期間内の利益を確保していきます。



②資本的収支について

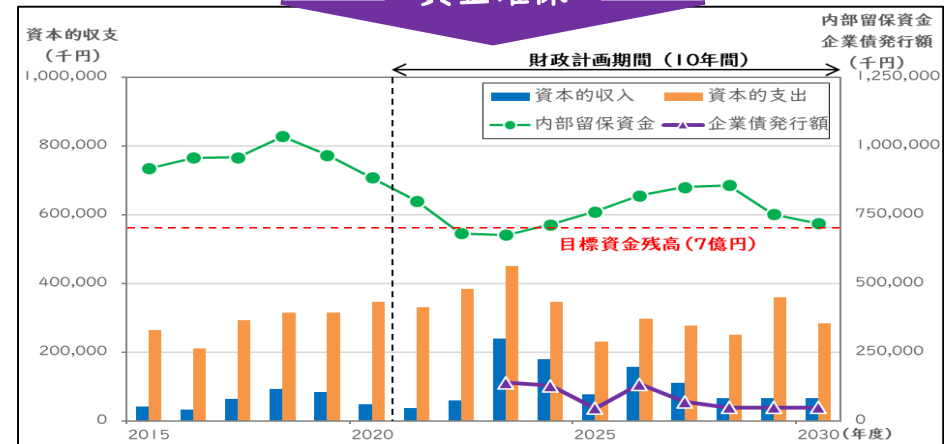
計画期間内に、基幹管路の耐震化や電気機械設備の更新工事が集中するため、年間平均約2.7億円の工事費が必要です。

現状のままでは、2023(令和5)年度に内部留保資金が7億円(料金収入約1年分)を大きく下回るため、資金確保の方策が必要です。



資金確保

世代間公平の観点からも、企業債の借入れにより、工事費の財源を確保します。これにより、内部留保資金7億円程度を維持します。



③長期的な財政見通し

損益の減少傾向に加え、人口減少等による給水収益の減収見込みから、企業債に過度に依存することのない、安定した資金の確保が必要です。また、大口使用者の上水道からの撤退や災害等の予期せぬ社会的影響を受け、財政状況が大幅に悪化する可能性があります。このため、将来の料金改定を視野にいたした事業経営が必要です。

7.フォローアップ

経営環境の変化に対応しながら、基本理念・基本目標に示す将来像を実現するため、PDCAサイクルによる進捗管理と、5年以内の計画の見直しを行います。